

「この人 34」

酒井 鹿洋 80歳 兵庫県

編集部 滑稽俳句を始められたきっかけは？

酒 井 俳句は、二十五年くらい前から始めました。日本郵船の船長を退職し、大阪湾パイロット、つまり水先案内人として内外の大型船を嚮導する仕事をしていましたが、海と空と沿岸を眺めながら、海への想いを句にしていました。現在は、船乗りとして航海し周遊した世界中の海、空、港、空、風物を、回顧しながら作句しています。故郷の霞ヶ浦という意味の「霞甫」という俳名を使っています。
滑稽俳句は、かねてから俳句にはその言葉通り、滑稽味がなければとっていたところ、滑稽俳句協会の発足を知って始めました。父を偲んで、父の俳名の「鹿洋」を使っています。

編集部 滑稽俳句の魅力は何でしょうか。

酒 井 生真面目俳句とは違って、人間社会を風刺し、ひとりでに笑える快感でしょう。俳句の幅も広がり、人間の裏側の観察力もつきました。

編集部 滑稽俳句をつくるコツをお教えてください。

酒 井 普段から、人間観察をすることと、漫画チックなものを見方をしてみることでですね。

編集部 これからも、培われた観察力で面白い句を詠まれてください。

< 代表句 >

珍名に神主まどふ七五三
昔よりエコはありけり日向水
携帯のふたり衝突年の暮
雪女でもよし農家嫁不足
一年の獄中暮し難納